

Lotus Notes から Microsoft Exchange および SharePoint への移行のベストプラクティス

Technology Strategy Research, LLC 著
Quest Software 提供



Lotus NotesからMicrosoft ExchangeおよびSharePointへの移行のベストプラクティス

目次

要約.....	1
はじめに	1
NotesからMicrosoftソリューションへの移行のベストプラクティス	2
移行の要件の収集	2
プロジェクトの計画	3
プロジェクトの実行.....	4
メールボックスと予定表データの移行	4
アプリケーションコンテンツとデザインの移行	5
移行先のMicrosoft環境の管理	6
結論	7
クエスト・ソフトウェアについて.....	8

要約

Microsoftソリューションの豊富な機能セット、Microsoftとの提携がもたらす戦略的価値、Microsoftテクノロジーの訓練を受けたITスタッフの高い有用性を活用するために、多くの組織がIBM Lotus NotesからMicrosoft ExchangeおよびSharePointへ移行しています。ただし、移行は長期にわたり、複雑で、費用のかかるプロジェクトであるため、慎重に計画し、実行する必要があります。クエスト・ソフトウェア提供の信頼できる自動化されたツールが、エラーを発生させることなく、スケジュールどおりに移行を実行する上で中心的な役割を果たします。さらに、移行の完了後には、クエストのメンテナンスソリューションが、ネイティブのMicrosoftツールを補完して、高パフォーマンスと信頼性を確保します。

はじめに

IBM Lotus Notesは、最もよく知られた企業ソフトウェアアプリケーションの1つです。Notesは、最初のワークグループアプリケーションの1つであり、メンバーが文書やその他の情報をオンラインで容易に共有できるようにしてグループの生産性を向上させることを目的としていました。また、1990年代の初めには、Notesはワークグループのメンバー間の通信を拡張した、ポピュラーなワークグループの電子メール用クライアント/サーバとなっていました。何百万ものNotesのエンドユーザーライセンスが企業内に展開され、10年以上にわたって、Notesは、これらの組織において通信とコラボレーションを推進するエンジンとして使用されてきました。

Lotus Notesの成功に寄与した1つの要因は、Microsoftによる実行可能な代替方法がなかったことでした。過去20年間において、Microsoftは著しい成長を遂げ、今日多くの組織でMicrosoftのサーバとネットワークインフラストラクチャが広く使用されています。しかし最近まで、MicrosoftはLotus Notesに匹敵する完全なソリューションを提供していませんでした。多くの組織がNotesメールからMicrosoft Exchangeに移行していますが、どのような規模の組織にも対応できるフル機能のコンテンツおよびアプリケーションポータルとしてのSharePoint 2007を発売するまで、Microsoftは、Notesビジネスアプリケーションに十分に代替できるアプリケーションを提供していませんでした。今日では、何年も前にNotesメールからMicrosoft Exchangeに移行した多くの組織がNotesアプリケーションから移行し、完全なMicrosoftソリューションが提供されるのを待っていた他の組織がNotesメールとNotesアプリケーションの両方から移行しています。

さまざまな種類の通信およびメディアが一点に集中するに伴い、Microsoftは通信を完全に一体なものとして統合するアプリケーションとツールを提供するベンダとして頭角を現しています。電子メール、コンテンツ、生産性アプリケーションの間に大きな区別がなくなり、これらの雑多なフォームのコンテンツを1つの場所に集約する傾向が高まっています。Microsoftはワークグループと生産性に焦点を当てることにより、比較的容易に複数のメディアにまたがって動作できるアプリケーションのコレクションを開発しました。この結果、NotesからMicrosoftプラットフォームへの完全な移行が可能になり、多くの役員がNotesへの戦略的投資を考え直しています。一部の役員は、以前の業務で成功した経験があることから、Microsoftプラットフォームを優先し、コストが適正であるかどうかにかかわらず、Microsoftプラットフォームへの移行を義務付けています。多くの役員が通信テクノロジーにおいて新たな市場リーダーとの提携によって得られる戦略的価値を認識しています。他の企業は、すでにMicrosoftソフトウェア、サーバ、インフラストラクチャにかなりの投資を行い、Microsoftプラットフォームに統一したいと考えています。いずれの場合も、NotesはMicrosoftソフトウェアを使用しないITインフラストラクチャの1つのパーツとして使用され、Notesからの移行がIT関連の戦略の重要な要素になります。

有能なITスタッフを確保できるかどうかもNotesからMicrosoftソリューションへの移行を決定する要因になります。企業内にはMicrosoftテクノロジーが至るところに存在するため、Microsoftベースのアプリケーションの構築および保守の

経験を積んだエンジニア、管理者、サポート専門技術者はすぐに確保できます。Notesの実装および保守の専門技術者は確保が難しく、これらのスキルの開発に投資しようとする専門技術者はほとんどおりません。

最後に、通常、移行を通じて既存のインフラストラクチャやアーキテクチャを超えた新しい機能が提供されます。多くの組織では、これらの機能を使用して、エンドユーザの生産性を向上させ、新しいプラットフォームへの投資に対する追加収益を生み出すことができます。

これらの理由のいずれも、組織がNotesへの多額の投資を放棄するための十分な根拠になるものではありません。ただし、全体として考えれば、通常、これらの理由は移行を正当化するものになります。NotesからMicrosoftソリューションへの移行は臆病な人のプロジェクトではありません。何千ものユーザやアプリケーションを擁する組織では、移行にはライセンス、システム、人員に対して6桁の数字のコストがかかる可能性があります。

組織は、将来の成長およびビジネス機会のための基盤を整備することにより、テクノロジーの移行から大部分の投資を回収することができます。Notesから対応するMicrosoftテクノロジーへ移行する場合、組織は既存のMicrosoftソリューションを活用すると同時に、補完的な機能を備えるMicrosoft製品をより完全に利用することにより投資収益を拡大します。

NotesからMicrosoftソリューションへの移行のベストプラクティス

多くのMicrosoftテクノロジーはプラグ & プレイ機能を備えているにもかかわらず、Notesから同等のMicrosoftテクノロジーへの移行には慎重な計画と実行が必要になります。必要な手順には次のようなものがあります。

1. 要件の収集
2. プロジェクトの計画
3. パイロットプロジェクトの導入
4. プロジェクトの実行
5. テスト
6. 実稼働開始
7. 移行先のMicrosoft環境の管理

これらの手順のいくつかについて詳細に検討してみましょう。

移行の要件の収集

NotesからMicrosoftへの移行の最初の手順は、新しい環境のユーザ要件を決定することです。これらの要件を理解することにより、組織は現在のメッセージングおよびコラボレーションインフラストラクチャが真にニーズを満たすかどうかを判定することができます。ニーズを満たさない場合、新しいプラットフォームの要件に追加機能を組み込むことができます。

これらの要件は、実行する作業と個々の作業アイテムの優先順位を指定することで、移行チームの取組みを指図します。組織は、どのNotes機能がミッションクリティカルであるかの優先順位を付け、これらの機能を最初に移行する必要があります。その他の機能は、後続のプロセスで移行することができます。電子メールは常に優先する移行項目ですが、多くの企業は、人事システム、財務アプリケーション、文書リポジトリなど、Notes内で構築された重要性

の高いアプリケーションにも依存します。これらの項目もプロセスの初期段階で移行する必要があります。これらの決定を行う場合、エンドユーザの関与が不可欠です。

また、要件は、移行が計画に従って進行しているかどうかを判定する重要なチェックポイントにもなります。これは、1年以上にわたって続くプロジェクトの場合に非常に重要です。さらに、検査担当者が、要件を使用して、プロジェクトが正常に完了したかどうか、つまりユーザニーズを満たしているかどうかを判定することができます。

この移行プロセスの開始段階では、IT移行および管理チーム、アプリケーション開発者(必要な場合)、部署の代表者、エンドユーザなどの全利害関係者が参加するのが理想的です。ビジネスアナリストは、ユーザ要件を特定し、具体化するために、これらのすべてのグループと連携する最良のポジションにいます。ビジネスアナリストをスタッフとして雇用していない組織は、外部コンサルタントに依頼して、スキルおよび客観性が適切なレベルに達しているかどうかを判定する必要があります。

プロジェクトの計画

要件が定義され、承認されたら、ITでは要件を満たすために必要なタスクを定義するプロジェクト計画をまとめる必要があります。この計画には、タスクの詳細なリストとこれらのタスクの完了に必要な推定時間を含める必要があります。タスクまたは外部イベント、必要なリソース、スケジュール間の依存関係を強調して表示する必要があります。

また、ITで要件に指定された機能を提供するMicrosoft製品を選択する必要もあります。Exchange ServerとOutlookは、電子メール機能を提供するためにほぼ必ず必要になりますが、ほとんどの場合、エンドユーザはMicrosoft Officeアプリケーションの一部として、すでにOutlookを所有しています。

ExchangeとOutlookを組み合わせることで、基本的なコラボレーション機能も提供されます。多くの企業は、ワークグループおよびプロジェクトで文書を利用可能にするために、Outlookの共有フォルダを使用しています。ただし、これらの共有フォルダの有用性には制限があります。共有フォルダはツリー構造に整理されていますが、ナビゲートが難しいため、大量の文書保管は実用的ではありません。

この問題に対応する代替製品がMicrosoft Office SharePoint Serverです。SharePointは、コンテンツとアプリケーションを1つのビューに統合できる成熟したポータル環境です。また、SharePointは、コンテンツ管理、エンタープライズ検索、コラボレーション、ワークフロー用の機能も提供します。

ほとんどの企業は、ExchangeとSharePoint Serverの多くの機能が必要であると認識しています。この意思決定が行われた場合、ITはサーバのサイズを決定し、バックアップシステムとソフトウェアを選択し、ユーザとインストールのレベルのメンテナンス要件を分析する必要があります。

最後に、移行の責任を負うITスタッフは、移行の課題を処理し、移行後Microsoft環境を管理できるスキルセットを保持していることを確認する必要があります。この手順の重要性を過小評価することはできません。ITスタッフは、Notesの管理とアプリケーション開発でかなりの経験を積んでいることが多いですが、移行先のMicrosoftテクノロジーにも対応するスキルを保持している必要があります。

次の手順はパイロットプロジェクトの実行です。メールボックス、予定表、コンテンツ、アプリケーションのサンプルをNotesから取得し、それらをMicrosoft ExchangeとSharePointに移行することにより、保持している知識とプロセスをテストします。この手順を通じて、ITスタッフはプロセスにおける課題と不整合を取り除くことができます。また、パイロ

トプロジェクトによって、移行チームと管理者は移行を正常に行えるという確信を得ることができます。

プロジェクトの実行

移行プロジェクトの実行には、メールサービスとポータル/コラボレーションサービスの2つの部分があります。それぞれの部分で、独自の計画と移行プロセスが必要になります。メールサービスには、電子メールと添付ファイル、個人用アドレス帳と連絡先リスト、個人予定表とグループ予定表、To-doリストが含まれます。ポータル/コラボレーションサービスには、コンテンツ、アプリケーション、プレゼンテーションが含まれます。移行する特定のアイテムを要件内に詳細に規定する必要があります。

歴史的に見ると、組織は1つのタイプのサービス(電子メールなど)の移行を選択し、次に他のタイプのサービス(ポータル/コラボレーションサービス)の移行を選択してきましたが、今日でもこれが一般的な戦略になっています。ただし、ExchangeおよびSharePointに移行する際に、Notesメールとアプリケーションを統合する市販ツールセットを使用して、両方を同時に移行することができます。この場合、通常、組織はNotesからMicrosoftへの完全な切替えに取り組む前に、アプリケーションをSharePointに移行できるかどうかを確認するための概念実証を実行します。

最初にメールを移行し、次にアプリケーションを移行することを選択した場合、適切なアプローチは次のように構成されます。

- 両方の環境の共存を確立する。
- Notesメールボックスと予定表をExchangeに移行する。
- NotesアプリケーションコンテンツをSharePointに移行する。
- SharePoint内のNotesアプリケーションを再構成します。

メールボックスと予定表データの移行

プロジェクト管理者は、メールと予定表の移行を実行する次の2つのアプローチのいずれかを選択することができます。最初のアプローチはバッチ移行です。この場合、すべてのコンポーネントがまとめて、1回の処理で移行されます。2番目のアプローチはデスクトップごとの移行です。この場合、個々のメールボックスとアプリケーションが個別に、順次移行されます。通常、バッチ移行の方がすばやく完了できますが、デスクトップごとの移行の方がより詳細に移行プロセスを制御できます。いずれのアプローチの場合も、自動化が迅速かつ正常に移行を完了するキーポイントになります。

個々のメールボックスの内容や設定をNotesからExchangeに手動でコピーする作業は、時間がかかり、エラーを起こしやすい作業です。移行の手順のスクリプトを記述することができますが、その結果は複雑で、不正確なものとなり、パフォーマンスの低下を招く可能性があります。

最良の方法は、Quest Notes Migrator for Exchangeなど、必要なすべてのファイルや情報をすばやくかつ正確に移行する市販のツールを使用することです。電子メール、予定表、タスク、個人用アドレス帳を変換し、Exchangeサーバの新しいメールボックスに格納するツールを選択する必要があります。また、移行するコンポーネントを分類し、それに優先順位を付け、不要なデータを除外することにより、移行の準備に役立つものである必要があります。さらに、移行および進捗状況のレポートにかかる実際的な推定時間を提供するツールである必要があります。

移行を開始するための最も安全な方法は、上述したとおりパイロットプロジェクトを使用する方法です。移行チーム

がパイロットで見つけたエラーを解決した後で、実際の移行を開始することができます。自動移行の際に、少数の不整合や特殊ケースが発生する可能性があります。移行ツールは、正常に移行されたコンポーネントとデータ、エラー、プロジェクトの全体状況と健全性をレポートするものが理想的です。このレポートにより、ITはすばやく問題と例外を識別し、それらをテストまたは実稼働段階で発見される前に初期段階で処理することができます。

アプリケーションコンテンツとデザインの移行

ほとんどの場合、NotesコンテンツのMicrosoft SharePointリスト、ドキュメントライブラリ、InfoPathフォームライブラリへの移行は比較的簡単です。重要な目標の1つは、コンテンツの構造とコンテンツアイテム間の関係を移行先 SharePointプラットフォームで保持することです。すべてのNotesデータ、リッチテキスト、画像、添付ファイル、OLEオブジェクト、ドキュメントリンク、アクセス制御リストを含む、すべてのコンテンツコンポーネントを識別し、移動できることも重要です。

一方、特に一部のアプリケーションがNotesプラットフォーム専用で開発されている場合、Notesアプリケーションの移行がしばしば問題となります。また、組織内で使用中のすべてのアプリケーションコンポーネントを識別することが困難な場合もあります。

アプリケーションの移行の最初の手順は、すべての場所にあるすべてのサーバにわたるNotesデータベースを識別し、技術的特性と業務の特性に基づいてアプリケーションを分類することです。次に、アプリケーションの使用法、データの複雑性、デザインの複雑性、標準デザインテンプレートからの偏差を分析する必要があります。目標は、移行する必要があるアプリケーションと各アプリケーションを移行するのに必要な労力のレベルを判定するために、アクティブなアプリケーションコンテンツを識別することです。多くのアプリケーションが同じデザインを共有する場合、これらを統合するか、または少なくとも一般的なルーチンセットを使用して移行できるように、これらを確認することが特に重要です。

その後、すべてのアプリケーションデータを、対応するSharePointの場所に直接移行することができます。ここでは、Quest Notes Migrator for SharePointなどの高品質の自動化ツールがきわめて重要です。ツールは、ITがプロセスを通じてプロジェクト全体を管理できるものである必要があります。以前Notesに存在した構造を反映するために、新しいSharePointサイトとサブサイトを頻繁に生成する必要があります。Notesアプリケーション内の所定の場所に配置されたアクセス制御ルールを、対応するSharePointサイト、リスト、ライブラリ、さらには個々のデータドキュメント内のアクセス許可にマップする必要があります。一部のNotesアプリケーションは、掲示板、予定表、ドキュメントライブラリなどの標準SharePointテンプレートにマップされます。その他のアプリケーションでは、SharePointの標準ではない追加のデータカラムやコンテンツタイプに対応するためにスキーマをカスタマイズする必要があります。移行ツールは、ソースアプリケーションで検出されたパターンに基づくカスタムスキーマの開発とそれらのSharePointへのプロビジョニングをサポートする必要があります。ITがカスタマイズ済みのSharePointアプリケーションテンプレートを開発または購入した場合、ツールはNotesからカスタムSharePointスキーマへのデータのマッピングとデータの変換(必要な場合)をサポートする必要があります。

通常、組織内の複雑なNotesアプリケーションは、最も可視性の高い、「ミッションクリティカルな」移行対象のアプリケーションです。また、多くの組織がアプリケーションをNotesからSharePointに移動する際に、アプリケーションを改善または統合したいと考えています。これにより、大量のアプリケーション開発要件が生じ、移動が行き詰まる可能性があります。多くの組織は、これらの高付加価値/高可視性アプリケーションを再構成するソリューションが得られるまで移行を開始することはありません。

これらのアプリケーションの再構成または改善は、Visual Studio、SharePoint Designer、InfoPathを使用して開発することができます。ただし、有能なSharePoint開発者の世界的な不足により、Quest Development Studio for

SharePointなど、開発コストと開発時間を大幅に削減するのに役立つ高速アプリケーション開発ツールへの投資が適切な戦略になっています。このWebPartsツールキットを使用して、ITはSharePoint内でカスタムコーディングなしでNotesアプリケーションを再構築することができます。これにより、アプリケーションを新しいプラットフォームで実稼働させるために必要な時間を最小化し、ITスタッフを他の重要なプロジェクトの貴重なコーディングリソースとして留保することができます。さらに、Notes開発者の再訓練が簡素化されます。Notesから.Net開発への切替えには、急激に立ち上がる学習曲線が必要です。WebPartsを設定できるようにNotes開発者をトレーニングすることで、その開発者を短時間で生産性の高いSharePoint開発者に育成することができます。

また、自動プロセスおよびツールを使用して、Notes環境とMicrosoft環境を長期間共存させ、拡張移行プロセス中、それらの円滑な連携動作を維持することができます。たとえば、Notesメールメッセージやその他のアプリケーションドキュメントは、他のNotesアプリケーションドキュメントにしばしばリンクされます。これらのリンクは、最初にメールを移行するか、アプリケーションを移行するかにかかわらず、移行全体を通じて機能し続ける必要があります。SharePointに移動したユーザは、Notesアプリケーションへのアクセス権を保持し続ける必要があります。引き続きNotesクライアントを使用するユーザは、受信トレイからSharePointドキュメントライブラリにNotesドキュメントをコピーできなければなりません。各組織のニーズはそれぞれ異なります。これらのさまざまな種類の課題を処理することができる幅広いツールセットを備えることが重要です。可視性と管理が移行とテストの主要な側面です。データなしで、実行すべき作業がどの程度残っているか、移行先環境が期待どおり動作しているかを判断することはできません。自動プラットフォームでは、ITチームがプロジェクトの状態を反映するデータを収集、分析、レポートできなければなりません。また、管理者はプロジェクトの状況を判断し、マイルストーンを調整し、不愉快な、予期しない事態に直面する前に、早期に問題を識別し、修正できなければなりません。

移行先のMicrosoft環境の管理

移行が正常に完了しても、作業は終了しません。企業内の電子メール、予定表、コラボレーション、コンテンツ、アプリケーションが完全にMicrosoftアプリケーションに格納されたら、長期間にわたり高パフォーマンスと高信頼性を維持するために、これらのアプリケーションと基盤となるインフラストラクチャを管理する必要があります。

長年にわたりIBM Lotus Notesを使用してきたITスタッフは、Microsoft ExchangeおよびSharePointでのアーカイブ、修復、ユーザ管理、拡張などの管理タスクが難しく、時間がかかると感じる場合があります。しかし、Microsoftソリューションの経験を積んだITスタッフでさえ、これらの製品による自動管理および制御戦略をサポートするツールの導入を計画する必要があります。

多くの組織では、Active DirectoryおよびSQL Serverなどの既存のMicrosoftインフラストラクチャを管理する自動ソリューションがすでに配置されています。これらのソリューションは、ExchangeおよびSharePoint専用に動作する補完製品を簡単に追加することができます。特に、クエスト・ソフトウェアのArchive Manager、MessageStats、Recovery Manager for Exchange、Recovery Manager for SharePoint、Site Administrator for SharePoint、Spotlight on Messagingは、IT管理者が信頼性の高い、高パフォーマンス環境を維持するのに役立ちます。

結論

組織の電子メール、ポータルコンテンツ、アプリケーションのIBM Lotus NotesからMicrosoft ExchangeおよびSharePointへの移動は、組織の機能性、結束力を高め、拡張の余地を生み出すので、業務面でも、経済面でも意味があります。ただし、移行には慎重な計画、実行、テスト、監視が必要になります。手動または自家製スクリプトを使用して移行を実行する場合、プロセスの適用の不整合、大幅な遅延と作業のやり直しをもたらす、移行先プラットフォームの最適な利用を妨げる可能性があります。

適切な代替手段は、Quest Notes Migrator for ExchangeおよびNotes Migrator for SharePointなどの実証済みの移行ソリューションを導入することです。これらのツールは、プロジェクトの完了に必要な労力を評価し、効果的なプロジェクト管理を可能にし、移行を確実に成功させるために重要な繰り返しタスクを自動化します。また、クエストは、新しいExchangeおよびSharePoint環境の管理に役立つ、完全なツール一式を提供しています。最終的には、組織が信頼性の高いスケーラブルなMicrosoftソリューションにより、投資を十分に活かすことができます。

Quest Software, Inc. について

クエスト・ソフトウェア(Quest Software, Inc.)は、アプリケーション、データベース、Windows インフラストラクチャによるパフォーマンスおよび生産性の向上を支援する革新的な製品を提供しています。IT 業務に対する深い専門知識、そして最善を追求する絶え間ない努力によって、クエスト・ソフトウェアは全世界 50,000 以上の顧客企業の IT ソリューションに対する高い期待に応えています。クエスト・ソフトウェアは、全世界にオフィスを展開しています。詳細については、www.quest.com を参照してください。

クエスト・ソフトウェア株式会社 (Quest Software K.K.) へのお問い合わせ

電話： 03-5771-8620
電子メール： japansales@quest.com
住所： 〒107-0062
東京都港区南青山 3-1-3
大手町建物青山ビル 8F
Web サイト： <http://www.quest.com/japan/>

クエスト・ソフトウェア(Quest Software, Inc.)へのお問い合わせ

電子メール： info@quest.com
住所： 5 Polaris Way, Aliso Viejo, CA 92656, USA
Web サイト： www.quest.com

クエストサポートへのお問い合わせ

クエストサポートは、Quest 製品の試用版をお持ちのお客様、または製品版を購入し、有効な保守契約書をお持ちのお客様がご利用いただけます。クエストサポートは、弊社の Web セルフサービスである SupportLink で、24 時間体制のサービスを提供しています。SupportLink (<http://www.quest.com/japan/support/>) を参照してください。

SupportLink では、以下のことが行うことができます。

- 数千ものソリューション(ナレッジベースの記事/文書)をすばやく検索できます。
- パッチとアップグレードをダウンロードできます。
- サポートエンジニアにサポートを依頼できます。
- ユーザ事例をログに記録および更新し、その状況をチェックできます。

サポートプログラム、オンラインサービス、連絡先情報、およびポリシーと手順についての詳細な説明については、「Global Support Guide」を参照してください。このガイドは以下で入手できます。
[http://www.quest.com/japan/support/Global%20Support%20Guide%202.5\(J\).pdf](http://www.quest.com/japan/support/Global%20Support%20Guide%202.5(J).pdf)